

みくるべひがしこうち  
三廻部東耕地遺跡

秦野市No.125

- 調査期間** 2017年6月16日～調査中
- 所在地** 秦野市三廻部
- 時代** 近世、中世、奈良・平安、弥生、縄文
- 調査原因** 中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
- 遺跡位置** 小田急小田原線渋沢駅から北西約2.5km。秦野市西部、四十八瀬川右岸の標高250mの河岸段丘上。



**主な調査成果**

平安時代から中世にかけての柱穴が2,000基以上発見されました。掘立柱建物として並ぶ組み合わせが確認出来ているものはわずかですが、簡易な建物を建てた柱の跡と考えられます。

縄文時代では中期初頭（約5,500年前）の竪穴住居が2軒見つかりました。長楕円形の掘り込みの中央に炉跡があり、よく焼けた焼土が検出されました。炉跡の西側は踏み固められたように堅くしまった状況が確認できました。床面には柱を立てるための穴が深く掘られています。竪穴住居から出土した遺物には、五領ヶ台式の土器とともに、挾状耳飾りや黒曜石の鏃などもありました。



12区東半部V層上面全景



8区 ab V層上面遠景



8区 aJ5 竪穴住居



8区 aJ4 竪穴住居 挾状耳飾